



---

---

労働政策研究報告書 No. 162

2014

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

---

---

---

東日本大震災と職業訓練の現場  
— ポリテクセンター宮城の被災から  
復旧・復興までの記録 —

(JILPT東日本大震災記録プロジェクト取りまとめNo.7)

東日本大震災と職業訓練の現場  
— ポリテクセンター宮城の被災から  
復旧・復興までの記録—

(JILPT 東日本大震災記録プロジェクト取りまとめ No.7)

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

## まえがき

独立行政法人 労働政策研究・研修機構では、平成 24 年度から 26 年度までの 3 年間の計画期間とする「東日本大震災からの復旧・復興と雇用・労働に関する JILPT 調査研究プロジェクト（震災記録プロジェクト）」を実施している。同プロジェクトは平成 23 年に発生した東日本大震災が我が国の労働市場と雇用に及ぼした影響とそれに対する関係方面の対応の軌跡を後世に記録として残すために行うものであり、全国の企業や業界団体ほかの各種民間団体、行政機関ほかの公的団体などが東日本大震災から受けた影響や被災後の復旧から復興までに行った取り組みについて調査した結果をまとめることを目指している。具体的には労働政策研究・研修機構が有する複数の研究領域でそれぞれの専門性を基に調査対象と焦点を定めて実施する一連の調査研究から構成されており、本書はその一部をなすものである。

研究計画初年度の平成 24 年度には東北被災三県及びその隣接地域にある 9 つの職業能力開発施設のそれぞれについて大震災後の主要な取り組みの記録を労働政策研究報告書 No.155『東日本大震災と職業能力開発施設―被災対応から復旧・復興までの記録―（JILPT 東日本大震災記録プロジェクト取りまとめ NO.2）』としてまとめた。そして、本書は其中で最も被害が甚大だった宮城職業訓練支援センター/宮城職業能力開発促進センターの被災から復旧・復興までの取り組みに焦点を当てて整理したものである。同センターの東日本大震災の被災から復興までの記録は、単に一つの職業能力開発施設の当時の実情を述べるに止まらず、我が国における離職者の再就職支援や高度技能者養成等の政策展開基盤の基礎力を記録に示すことにもなる。公共や民間の職業能力開発施設の関係者、職業紹介に関係する方々をはじめ、広く我が国の労働市場と労働力需給調整の問題に関心をもたれる方々に対して本研究成果を提供することで、我が国の労働政策に理解を深めることに役立てていただければと思われる。

なお、本書に係る調査研究の実施については、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構及び同宮城職業訓練支援センター/宮城職業能力開発促進センターの大きな協力を得ている。

2014 年 3 月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 菅野和夫

## 執筆担当者

氏名	所属	執筆部分
奥津真里 <small>おく つ ま り</small>	労働政策研究・研修機構 特任研究員	第Ⅰ部、第Ⅱ部、 付属表の付1～付7、付12
古俣誠司 <small>こ また せい じ</small>	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員	付属表の付8～付11

# 目 次

## 第Ⅰ部 調査の概要

はじめに	3
1. 目的	4
2. 本研究の位置づけ及びこれまでに把握されていること	5
(1) 本研究の位置づけ	5
(2) 前年度の研究で把握されていること	6
3. 今回の調査結果の要約	11

## 第Ⅱ部 調査の結果

第1章 調査対象の概要	21
第1節 調査対象と調査内容	22
1. 調査対象と回答者の数	22
2. 回答者の属性等	23
(1) 職員	23
(2) 職業訓練受講者 — 訓練生及び現訓練生	24
第2章 大震災発生時の人々	28
第1節 事態の理解と状況判断 — 何が起きたと受け止めたか	28
1. 大震災発生時の居場所 — まさにその時、居合わせた場所	29
a. 職員	30
b. 訓練生 — 大震災発生時に指導の下にあった訓練生	32
c. 現訓練生 — 在籍していなかった人々；それぞれの生活の中での大震災発生	33
2. 大震災発生時に進行していた行動 — まさにその時、何をしていたか	39
a. 職員	39
b. 訓練生	41
c. 現訓練生	43
3. 何が起きたと受け止めたか	44
a. 職員	46
b. 訓練生	47
c. 現訓練生	49
第2節 その時の「とっさの行動」	54
1. 大震災が発生した時、とっさにどのような行動がとられたか	54
a. 職員	56

b. 訓練生 .....	64
c. 現訓練生 .....	68
2. その時の状況判断と「とっさの行動」の関係 .....	73
a. 職員 .....	73
b. 訓練生 .....	78
c. 現訓練生 .....	81
第3章 避難行動 .....	88
第1節 直後からの行動 — 「とっさの行動」のその後 .....	88
1. 宮城センターにおける情報取得と避難行動 .....	88
(1) 職員 .....	88
ア. 「とっさの行動」のその後 — 避難と避難誘導 .....	88
イ. 宮城センターにおける情報の入手・発信 .....	94
ウ. 多賀城の施設における情報の入手・発信の方法と環境 .....	96
(2) 訓練生 .....	97
ア. 「とっさの行動」のその後の行動と情報の入手 .....	97
イ. 「とっさの行動」のその後に試みた情報発信 .....	100
第2節 大震災当日のその後の過ごし方 .....	101
1. 職員 .....	101
2. 訓練生 .....	108
3. 現訓練生 — 市民生活での情報取得と避難行動 .....	111
(1) 情報の入手・発信と避難行動 .....	111
(2) 大震災当日のその後の過ごし方 .....	115
第4章 被災後の行動と生活 .....	117
第1節 被災後の生活 .....	117
1. 被災後の生活基盤と行動 .....	117
(1) 被災翌日からの数日間 — 翌日からの生活拠点と行っていたこと .....	117
a. 職員 .....	117
b. 訓練生 .....	121
c. 現訓練生 .....	124
(2) 生活基盤や職場の状況 .....	127
a. 職員（職場での職員、職場の外での職員） .....	128
b. 訓練生 .....	131
c. 現訓練生 .....	133

2. 被災後数日からの苦労や困難	134
a. 職員	134
<外からの問い合わせ等>	134
<困難や負担となったこと>	136
b. 訓練生	138
c. 現訓練生	139
第2節 大震災の影響	143
1. 職員のその後の職場	143
(1) 職場生活での変化による問題や苦労	143
(2) 仕事の中にみえた変化	147
2. 訓練生の就職活動	154
(1) 職業訓練の中止と就職活動	154
(2) 現在の就職状況の評価 — 納得、受容、不満、再挑戦	162
3. 現訓練生の生活変化 — 市民生活での被災と離職・再就職活動	168
第5章 まとめ	174
第1節 大災害の発生直後の集団の行動と個人の行動	174
1. 大震災発生時の宮城センターの概況	174
2. 大震災が発生した時の事態の受け止め方と「とっさの行動」	175
(1)大震災時に居合わせた場所とその時行っていたこと	175
(2) 事態の受け止め方と「とっさの行動」	176
(3) 被災直後の行動 — 「とっさの行動」のその後	178
第2節 大災害の後に続く生活と職業	182
1. 各自の被災状況と大震災後の生活拠点	182
2. 職業活動への影響	183
第3節 施設の復旧・復興とまとめ	185
1. 復旧と職業能力開発支援の現場への大震災の影響	185
2. 復旧の過程と復興訓練	186
3. 地域への協力と地域からの支援	187
4. 総括	189
5. 今後の課題	192
引用文献	193
付属表	195